

# 30P-pm310

キラルカラムによる 4-ノニルフェノール異性体の光学分割

○内山 武人<sup>1</sup>, 齋藤 弘明<sup>1</sup>, 牧野 三津子<sup>2</sup>, 片瀬 隆雄<sup>3</sup>(<sup>1</sup>日本大薬,<sup>2</sup>日本大文理,<sup>3</sup>日本大生物資)

【目的】内分泌かく乱物質といわれている 4-ノニルフェノール (4-NP) の市販製品中にはアルキル側鎖における多くの構造異性体が含まれており、我々はこれまでに 18 種類の構造異性体の存在を確認してきた。今回、不斉中心をもつ 4-NP に着目し、構造異性体別に合成した 4-NP 異性体について HPLC キラルカラムによる光学分割を検討した。

【実験・結果】不斉中心をもつ 4-NP の構造異性体のうち、NP-A および NP-I については、ダイセル化学工業社製キラルカラム CHIRALCEL OJ-H および CHIRALPAK AD-H によって光学分割できることを明らかにしてきた。不斉中心を 1 つもつその他の 4-NP 異性体についても同様に検討を行なった結果、NP-B, C, H, M, N では良好な分離結果を与えた。(カラムサイズ 4.6 mm x 250 mm, 移動相 *n*-hexane: *i*-PrOH = 40:1, 流速 1 mL/min.) 一方、NP-F は CHIRALPAK AD-H では分離せず、CHIRALCEL OJ-H を用いた場合においても良好な分離結果を得られなかった。不斉中心を 2 つもつ 4-NP 異性体や、他のキラルカラムによる分析結果についても現在検討中であり、併せて報告する。

